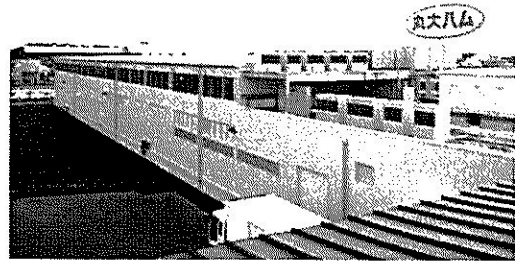


○ 丸大食品が関東工場（栃木県下野市）を増設、年間3.2万t体制に

【大阪発】丸大食品が今年3月から増設工事を進めてきた東日本の基幹工場である関東工場（栃木県下野市）が、このほど竣工、稼動を始めた（＝写真）。

燻製屋や焼豚・ハムなど同社主力のハム・ソーの増産に対応するもので、連続ライン（自動化ライン）による一気通貫の生産体制で、商品の滞留を起こさず人手も増やさず「品質の向上と効率化を推進する」狙い。生産量は22,000t（08年度）から10,000t増の32,000tに拡大される

<概要>△敷地=65,421㎡△延床=29,657



㎡（6,190㎡増加）△生産品目＝ハム・ソーセージ△生産能力＝32,000t（10年度）△投資額＝23億円。

○ ミートコンパニオンがマカオへ牛肉輸出、高級部位など月200頭目指す

㈱ミートコンパニオン（阿部昌史社長）は今秋からマカオへの牛肉輸出に取り組む方針だ。ミートコンパニオングループの㈱アグリズ・ワン和光ミートセンター（埼玉・和光市）が16日、マカオへ輸出するための認定施設への申請書を提出。近く埼玉県庁および厚労省からの審査・認定を受理する見込みだ。

ミートコンパニオンによると、すでに都内商社を通じてマカオの事業者とコンタクトを取っているところで、来月中旬に輸出に向けて具体

的な動きに着手したい考え。輸出品目は、現地の高級レストランやスーパーなどにアグリズ・ワンで処理された和牛（A5～A3クラス）と交雑牛（A3）のロースなどを予定、当面の輸出目標は1カ月当たり200頭分としている。ミートコンパニオンの植村光一郎常務は、「高級部位を輸出することで、冷え切った日本の需給関係で価格下落の止まらない相場を回復させ、再生産可能な畜産物市場の活性化を狙いたい」と期待している。

○ 県産畜産物の販促イベント「元気もりもり畜産フェア」を開催—鹿児島県

鹿児島県は県産畜産物の販売促進・消費拡大を図ろうと、9月から11月の第4土曜日、日曜日に鹿児島市本港新町ドルフィンポートで「食欲の秋 元気もりもり畜産フェア」（主催：『かごしま畜産の日』実行委員会）を開催すると発表した。9月26～27日、10月24～25日、11月28～29日の午前10時から午後3時にかけて食肉・加工品の試食や牛乳の試飲、即売会などを行う。

景気低迷による外食控えや高級食肉の消費低迷で、食肉の在庫が大幅に増加するなど、国内有数の畜産県である鹿児島県内の畜産業界は厳しい状況に置かれている。そのため、各畜産団体と行政が一体となって食肉の販売・流通

促進に取り組み、畜産農家の生産意欲向上を図ろうとするもの。

当日は、鹿児島県経済農業協同組合連合会や県鶏卵販売農業協同組合、マルイ農業協同組合、南九州畜産興業、鹿児島県食肉公正取引協議会、南九州食肉原料協議会、さつま地鶏生産者協議会など10団体が出店し、食肉の販売・試食会を行うほか、県内の畜産関係十数団体が協力。食肉の購買者にはオリジナル黒牛携帯ストラップやオリジナル黒豚シャープペンシルなどは配布されるほか、卵のつかみ取り、「鹿児島黒牛」「かごしま黒豚」を紹介するDVDの上映、着ぐるみ、チラシ配布などによるPRを予定している。